

仏教タイムス

2023. 12. 7

イスラエル・パレスチナ紛争

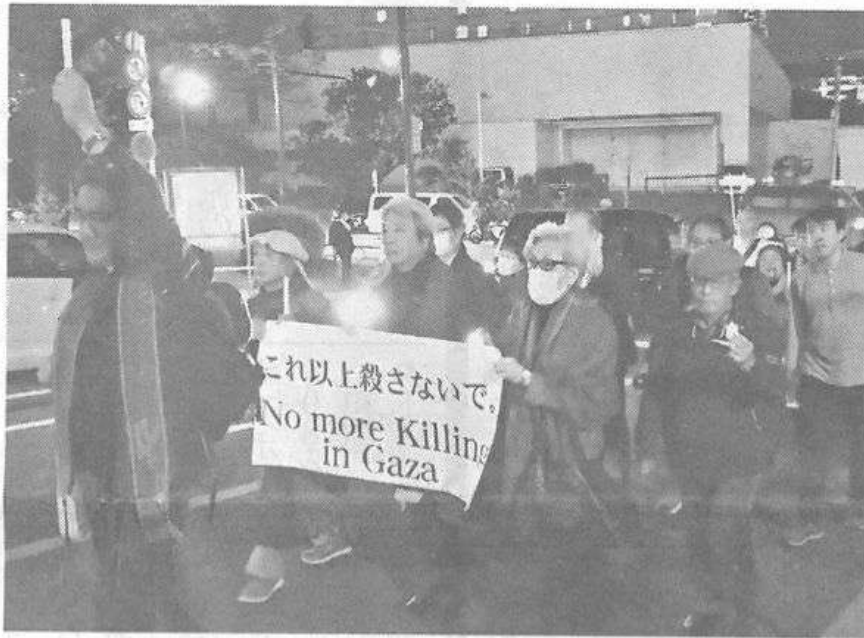
即時停戦願い集う

ユダヤ、イスラーム宗教者も行進

イスラエル・パレスチナ紛争の即時停戦と人質解放を願う集いが11月28日、東京都港区の大本山

増上寺で開かれた。現地で人道支援を行うNGOや市民、宗教者ら約110人が紛争の犠牲者を追

悼し、仏教、キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教の祈りが捧げられた。集いでは、冒頭にパレ



集い後には平和を願うサイレントマーチも行われた

スチナ・ガザ地区の子どもたちを追ったドキュメンタリー映画『ぼくたちは見た』を上映。続いて現地で活動する複数の日本のNGO団体が現地の状況を報告した。

今回のイスラエルによるガザ地区への攻撃で1万4000人以上が死亡し、その半分以上が女性や子どもとされ、「10分に一人の子どもが亡くなっている」と指摘。

医療施設への攻撃や支援物資の搬入が困難な状況が続く、「誇張ではなく、必要な物資が届かなければ、多くの子どもは生き残ることができないでしょう。爆弾のせいではなく、脱水症状や病気が原因で子どもたちが犠牲になる」とし、現在は人質解放のため戦闘が中断されているが、「再度、戦闘が始まれば私たちガザ市民は生きていけません」と現地スタッフの言葉が伝えられた。